高木伐倒事例報告

【第１日目】

とき：平成２２年１月１３日（水）

ところ：伊賀市白樫。

参加者：湯浅明、湯浅真由子、石塚盛行、渡辺隆志、山田俊雄。

経緯：湯浅明氏の知り合いの人から、伐倒要請があり、彼の案内で有志による伐倒作業が行われた。当日は快晴、西名阪、伊賀の道の駅で終結。湯浅明氏の案内で、現地に向かう。

依頼主の裏山、雑木が生えている。伐倒対象木にテープを巻く。

太いクヌギ、４本が依頼対象木であり、その周辺の邪魔になる雑木も数本、伐倒することになった。

１本目、上の幹に、ロープをかけ、倒す方向を決める。

太い木の伐倒は、石塚盛行氏に任せる。

他の４人が、分担してロープ作業を行う。ロープは、滑車 3 個、引っ張り具１基を使って、引っ張る。最初に受け口切り。

左：受け口のチェック。

上写真：狙った位置に切り倒し成功。
すぐに枝、幹、を玉切りして、片付ける。

写真右：2本目、太い枝が2本、家の方に伸びている。木の重心は家の方にある。この2本を、先に切って、下に落とすことにした。
家と反対方向（重心に逆らって）に引っ張って、切り倒す計画である。

枝切りは、梯子をかけ、梯子の上あたりで切らねばならない。危険であるので手順として、切り目を入れ、作業者が梯子から降り、梯子も外して、この後、ロープ、ワイヤーを引き、枝を折る作戦である。

昼食を挟んで、午後の作業から、湯浅氏の友人にチルホールを借りることになった。手持ちの引っ張り具は、挽き代が 1mほど、ロープも伸びるし、作業効率があげられない。

写真下：枝切りの様子。

太い枝2本

枝切りは、ほぼ、計画通り、うまく処理できた。

チルホールのワイヤーを上の幹に取り付け、ロープも木が伐倒時、家側に倒れないよう補助的に取り付ける。

引き倒しは、予想に反し、木が回転して、家に沿って倒れた。

狙いは、家の反対方向に倒したかったのに・・・
重心の位置次第で、倒れ方が異なる。

すぐさま、枝、幹の玉切り、片付けに入る。

午後からの2本目、伐倒に取り掛かる。
ワイヤーは、上の幹に取り付け、補助のロープは、その下の太い幹に固定し、家の方へ倒れないようにした。
引き倒しは、受け口、追い口を入れたのち、作業者が伐倒木より離れた場所に避難後、チルホールを使って、倒した。

倒れた瞬間は、地響き、風が起こり、迫力満点。怖いぐらいであった。

記念撮影：本日はこの片付けで終了となる。
残り1本、及び追加の伐倒依頼1本があり、日を改めて、出向くことになった。
（報告者：山田俊雄記。）

【第２日目】
とき：平成２２年１月２７日（水）
ところ：伊賀市白樫。
参加者：湯浅明、石塚盛行、渡辺隆志、長谷、山内敬子、山田俊雄。
経緯：前回 1/13、倒せなかった雑木の伐倒、本日再度現地にて、実施となり、有志が参加した。当日は快晴、風のなく暖かな日であった。西名阪、伊賀の道の駅で終結。湯浅明氏の案内で、現地に向かう。

１本目、上の幹に、梯子でロープをかけ、倒す方向を決める。

石塚氏持参のロープのチルホールを使用する。

伐倒木の周辺にある、雑木、３本も伐倒してほしいと言われ、本日の主作業（２本伐倒）後、除伐した。

ロープの取り付け終了。
梯子も外して、木の周辺も確認「よし」。
これより受け口づくりだ。

写真左:
受け口、切り込み後、伐倒方向にヅレがないか、念入りにチェックする。
もしヅレていれば、修正する。

追い口作成にかかる。

太さがチェンソーのバー長さを超えているため、両側から切り込まねば届かない。

緊張の作業である。
切り手は、石塚盛行氏。
抜群の技量を発揮する。

右に見える切り株は、前回作業のもの。

楔を打ち込む。

楔を打ち、ロープによる引き補助とで、引き倒しにかかる。

うまく処理できました。

枝、幹の切り離し、片付け途中で、昼食。

今日の2本目。
奥の林に生えている二股の雑木。手前側だけ伐倒してほしいそうだ。

この左に伸びている枝は、先に切り落とすことにした。木の重心が家側になっているのでこれを先に切ることで、重心位置を修正できる。梯子を掛け、この上の作業である。

家の傍に生えている樹集団、これもすべて除伐するよう追加依頼があり、主作業後処理することにした。

左に伸びている枝の切断完了。
引っかかるが、下に引き落とす。

二股の幹部分：
受け口をいれ、追い口にかかる。

伐倒された状態。

家との位置関係。

最後に追加依頼の雑木、及び周辺の樹木数本を処理して本日の伐倒、除伐作業は終了。

玉切り、枝切り、片付けを終えて、資材を片付け、退散となる。

作業中、また、昼食時、何かとお気づかい、差し入れなど、いただきました持ち主の旦那様、奥様にお礼を申しあげます。

（報告者：山田俊雄記。）